



2022年8月20日～21日

GR86/BRZ Cup プロフェッショナルシリーズ第2戦

気まぐれな天候に翻弄され、
下位に沈んでしまった予選
必死の抵抗もエンジンはパンチを欠き、
第2戦は18位に甘んじる

スポーツランドSUGO(宮城県)

晴れ/ドライ 13周(37台)
中山雄一 予選 25番手/決勝 18位

チーフエンジニア：
高橋 雄大
チーフメカニック：
清水修

新型トヨタ GR86 とスバル BRZ が用いられることとなり、今年からシリーズ名称も改められた TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup に、IBARAKI TOYOPET RACING TEAM は継続参戦を決定。今年も「IBARAKI TOYOPET GR86」で中山雄一選手を擁して、プロフェッショナルシリーズ全戦を戦う。第2戦の舞台はスポーツランド SUGO である。

予選の直前までは穏やかな天候を保ち続けていたスポーツランド SUGO だったが、突然の雨に見舞われ、路面は瞬く間に濡らされてしまう。しかも、それぞれ1周のみ走行を許されたところで、コースアウトした車両があって赤旗が出され、計測は中断。20分ほどして再開されるも、雨は降ったままで、しかも絶えず勢いを変化させていた。

再開後の中山選手は1分49秒台から、徐々にタイムを詰めていき、終了間際には1分47秒台を連発するも、トップは1分45秒台にも達しており……。その上、ベストタイムの1分47秒630は走路外走行のため採用されず、1分47秒792で順位が決したため、無念の25番手に甘んじてしまう。





「うまく合わせきれませんでした。まさかこんなに降るとは思わなくて……。赤旗が出なかったら、また違ったかもしれません。最後、ちょっと乾いたんですが、もっと乾く想定だったので……。意外と雨が残っちゃったので、残念です」

(中山雄一選手)

日曜日の SUGO は、再び落ち着きを取り戻し、青空の下で決勝レースが行われた。そつなくスタートを切った中山選手は、前方で生じた混乱も回避したこともあり、オープニングラップのうちに 22 番手に浮上。その後はバトルを繰り返しながら、7 番手には 20 番手に、次の周には 19 番手に上がって、さらなるポジションアップの機会を待つことに。その機会が 11 周目に訪れたかと思われた。しかし、最終コーナーでかわしたはずが、ストレートで呆気なく抜き返され、2 コーナーからヘアピンまで並び続けた中山選手だったが、再び前に出ることは許されず。ペース的にはトップグループとも遜色なく、もし予選が気まぐれな天気と意地悪されなければ、もっと上位で争えたはず。結局、「IBARAKI TOYOPET GR86」と中山選手は 19 位でゴールしたが、その後の再車検で上位の一台に最低地上高違反が発覚。そのため、ひとつ順位は繰り上がって 18 位となった。

次回のレースは 9 月 24～25 日に十勝スピードウェイで開催される。今回の無念を、北の大地で晴らすことが期待される。

「集団の中ではペースも良くて、後半勝負で抜いていけるだろうなと思っていたら、途中からエンジンが吹けなくなっちゃって。後半はまわりのドライバーから『なんかおかしいよ』って言われるぐらいでした。予選からエンジンの遅さは出ていて、ちょっとずつロスしていると思うので、もったいなかったですね。今後改善していきたいと思います」

(中山雄一選手)

